

「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」第3回意見交換会 《スマートシティたかまつ推進協議会での実証実験事例を考察》

四国総合通信局(局長:村松 茂(むらまつしげる))は、平成31年3月1日(金)に高松市で「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」の第3回目の意見交換会を開催しました。同ネットワークは、管内の電波分野の研究に取り組む研究者の交流及び意見交換の場を設けると共に、電波に関する技術情報や利活用・実証実験の事例も紹介することにより、研究者をサポートすることを目的に立ち上げたものです。四国管内の4大学及び5高等専門学校から16名の研究者が参加しています。

第3回目の意見交換のテーマは、「福祉分野における電波の利活用～スマートシティたかまつでの事例考察～」であり、ネットワーク研究者16名のうち11名が当日出席し、活発な意見交換が行われました。

【スマートシティ実現に向けた高松市の取組の紹介】

「スマートシティたかまつ推進協議会」は、高松市及び6つの企業・団体を発起人として、産学官民の連携の下、高松市の地域課題の解決を目的として、官民データの共通プラットフォーム上での適正かつ効果的な利活用の推進(スマートシティ化)をはかることを目的に平成29年10月に設立されました。

意見交換会では高松市総務局の広瀬参事が、同協議会による取組について平成29年度の防災分野(観測地点に水位センサ等を設置し、リアルタイムに庁内で把握)と観光分野(レンタサイクルにGPSロガーを設置し、外国人観光客の訪問先を把握)の活用事例を、また平成30年度の福祉分野(後述の実証実験)と交通分野(ドライブレコーダーの記録を分析し、ヒヤリハット発生地点を特定)の活用事例を、それぞれ紹介しました。

参加研究者からは、共通プラットフォームに関する質疑等があり、有益な情報交換が行われました。

【福祉分野における実証実験の事例紹介】

スマートシティたかまつ推進協議会の平成30年度の福祉分野の実証実験として、プロジェクトリーダーである香川高等専門学校の三崎教授が、バイタル情報(呼吸や心拍の把握)、位置情報(徘徊対策)、加速度情報(転倒の有無の把握)を取得できるウェアラブル端末を、ひとり暮らしの高齢者の見守りに活用する実証実験について説明しました。また、取得したデータを高松市が運用している共通プラットフォーム上の他のデータ(日時、天気等)と重ね合わせて分析し、アクシデントが生じやすい時間帯にアラート(警報)を発信することで、予防的な見守り体制を整備する「地域一体型バーチャルケアによる介護予防推進事業」のシステム構成モデルやビジネスモデルについても説明しました。

参加研究者らは、ウェアラブル端末の運用方法等に関する質疑の後、展示されていたウェアラブル端末を実際に身に付けてバイタル情報を測定する等の体験をしながら、実証実験について理解を深めました。

【国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)からの情報提供】

地域での医療・福祉分野におけるワイヤレス研究開発事例について紹介。

【総務本省電波政策課からのSCOPE(※)等に関する情報提供】

SCOPEの「電波COE(Center Of Excellence)研究開発プログラム」の公募と「高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト」の実施について紹介。

※ 戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE: Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme)は、情報通信技術(ICT)分野において新規性に富む研究開発課題を大学・独立行政法人・企業・地方公共団体の研究機関などから広く公募し、選考評価の上、研究を委託する総務省の研究開発資金です。電波有効利用促進型研究開発は、電波の有効利用をいっそう促進するため、新たなニーズに対応した無線技術に関する先進的かつ独創的な研究開発を推進するプログラム。



意見交換会の様子



展示コーナーの様子

【お問い合わせ先】

四国総合通信局 無線通信部 企画調整課 電話 089-936-5071